

ブータンで新政権発足（554号）

2024年 2月 石館

”幸せの国“として知られるヒマラヤの王国ブータンで下院議会選挙が行われ、過去に政権を担っていた野党の国民民主党が議席の過半数を獲得した。ブータンについては以前レジメに書いたことがあるが、東日本大震災の年に、国王夫妻が訪日し話題になったことを覚えておられる方も多いと思います。



「幸せの国」ブータンで経済立て直しが課題、野党対決の総選...

ブータンは国土が日本の九州程度で、人口は約80万人の小国である。

小生は隣国のネパールには何回も行っているが、ブータンには入ったことがない。

ブータン政府はブータン固有の社会や文化を守るため、あるいはあまりにも大きな影響力のある隣国（中国やインド）から自らのアイデンティティを守るため、1970年代まではほぼ鎖国政策を取っていた。

海外からの旅行者を入れたのは1974年からと、まだ50年しか経っていない。現在でも過度な外国人旅行者の流入を避けるため、1日当たりの料金を設定している。

国土の大部分が山岳地帯であり、ブータン北部には7000メートル級の山々を5峰有しているが、南部には海拔100メートルの地域もあり、国土の高低差が大きい。しかし、国土の大半は標高2000メートル以上の山岳地帯であり、首都のティンブーでさえ2334メートルある。

経済的には豊富な水資源を活用した水力発電事業が牽引役となり、2007年から2017年の経済成長率は平均7.6%と世界平均の3.2%を大きく上回る

ほど成長している。生産される電力のほとんどは隣国インドに輸出されブータン財政に大きく貢献している。一人当たりの国民所得も、2006年の1300ドルから、2018年の3080ドルと世界銀行が分類する下位中所得国の水準に達している。

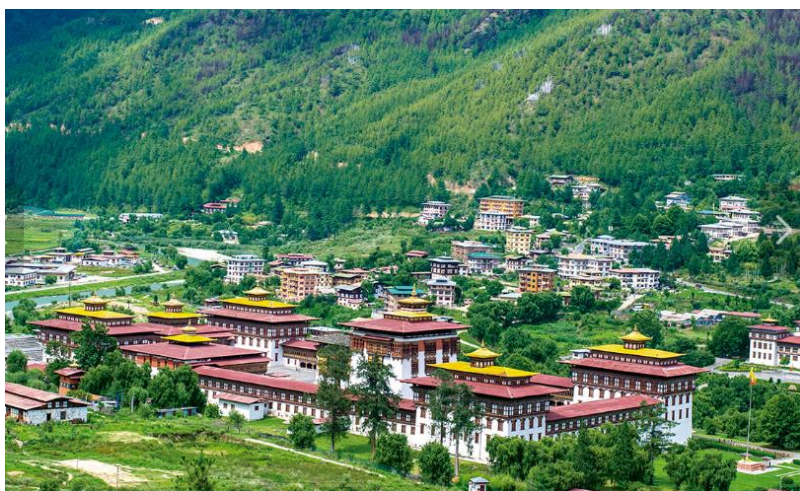


ブータンのワンチュク国王夫妻

ブータンでは男性が数人の姉妹を妻にする一夫多妻や、女性が数人の兄弟を夫にする一妻多夫が続いてきたが、王国が近代化するにつれてこの複婚制はなくなりつつある。

ブータン国王夫妻に次男となる王子が誕生！

ワンチュク国王は2011年5月、民間出身の航空機パイロットの娘、ペマさんと結婚発表の際、ペマさんが唯一の妻となると宣言した。ワンチュク国王の父が1979年4人の姉妹と同時に結婚式を挙げたのとは大きく異なる発表であった。



ブータンの首都ティンブプーにある政府庁舎

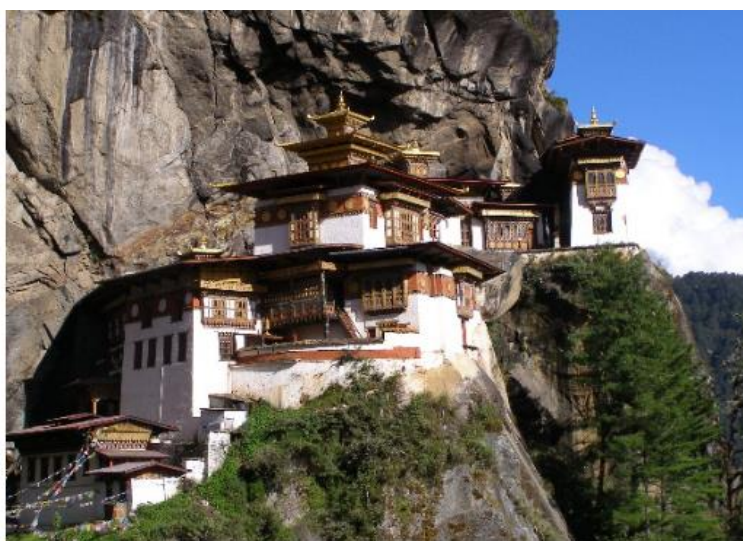
下院選は本選進出を2党の絞る予備選と、2党が争う本選の2段階方式である。与党・協同党は2023年11月の予備選段階

ですすでに敗退しており、政権交代が確定した。今回の本選は国民民主党と新党の縁起党の一騎打ちであった。結果国民民主党が30議席、縁起党が17議席となり、2018年まで政権を担った国民民主党が過半数を獲得した。

ブータンは“国民総幸福量（GNH）”という独自の概念を打ち出し、経済的な豊かさだけではない“幸せ”の追求を国家目標に据える。

ただ観光に大きく依存する経済は新型コロナの感染拡大で打撃を受けた。2020年には、年間30万人を超えていた観光客数、総額2億ドル以上の観光収入の約9割が減った。22年からは入国税を導入するなど大幅に落ち込んだ景気回復を模索してきた。また政府は公務員の合理化を含む改革を推進した。ブータン統計局によると22年の若者（15～24歳）の失業率は28.6%と5年前の2倍となった。

IMFによるとGDP成長率は2021年にマイナス3.3%まで落ち込んだ。23年には5.3%まで戻したものの24年は3%に下がる見込みだ。中国とインドの対立も影を落とす。ブータンは“非同盟主義”を掲げ、国連安全保障理事会の常任理事国5か国のいずれとも公式な外交関係を結んでいない。大国との外交はインドが仲介してきた



ブータン観光のメインともいえるタクツァン僧院

ブータン内だけでなくチベット仏教圏全土でも指折りの聖地とされる。急な断崖にはりつくようにして建つその姿は、圧倒的な力に満ち溢れている。

険しい岩肌に広がるタクツァン僧院

この僧院に行くにはかなり厳しい登坂を、個人差はあるが、3時間以上登らなければならない。ネパールにも同じような僧院があり、小生も訪れたことがあるが、ブータンの方がより神秘的であるようだ。

既に述べたようにブータンは余暇や環境などを含めた充実度を図る“国民総幸福量（GNH）”を重視しているが、しかし、経済は非常に閉鎖的で、水力発電と観光業に依存している。さらに労働市場で最大の公務員部門の合理化と近代化を目的とした政府の公共部門改革も、専門職大量流失の一因となっている。インドと中国に挟まれたブータンは1昨年9月に国境を再開した。

だが、観光税の引き上げが重要産業である観光業の回復に水を差しており、若者の失業率が増加した。自国の雇用見通しが暗い中、多くの若者がオーストラリアに殺到。オーストラリアは、過去50年間で最もひっ迫した労働市場の需給を和らげようとビザの支給を見直した。

人間の幸福度の尺度は様々な要因があり、国民すべてが幸福であるということは非現実的である。現にブータンは都市と地方では格差が拡大しており、若者は地方を捨てて都市に出てきている。それどころか海外に出国するようになっている。“幸せの国ブータン”のかじ取りはますます難しくなっており、早晩この標語は看板を下ろさなければならなくなるのではないか。